



平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年10月31日

上場会社名 住石ホールディングス株式会社
 コード番号 1514 URL <http://www.sumiseki.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長崎 駒樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経理部長 (氏名) 高木 賀光
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月7日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-5733-9901

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	7,255	39.8	90	141.1	1,923	447.0	1,752	517.5
29年3月期第2四半期	5,190	43.4	37	64.8	351	33.4	283	64.9

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 1,760百万円 (743.1%) 29年3月期第2四半期 208百万円 (69.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	31.19	26.82
29年3月期第2四半期	4.96	4.30

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	17,737	12,459	69.9
29年3月期	16,359	10,917	66.4

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 12,393百万円 29年3月期 10,860百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期				2.00	2.00
30年3月期					
30年3月期(予想)				2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,000	19.5	100	25.7	1,900	274.5	1,700	426.1	30.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	58,892,853 株	29年3月期	58,892,853 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	3,058,006 株	29年3月期	2,057,953 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	56,187,170 株	29年3月期2Q	57,198,787 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

(第二種優先株式)

	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	—	—	2.00	2.00
30年3月期	—	—	—	2.00	2.00
30年3月期(予想)			—	2.00	2.00

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
3. その他	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の景気は、企業収益・雇用環境の改善が続いていることを主因に緩やかな回復基調で推移いたしました。

一方、世界の景気も、米国経済が着実に回復し、中国をはじめとするアジア地域も持ち直しの動きがみられることから、全体的に緩やかかな回復が続くことが期待されています。

このような事業環境のもとで、当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)は、石炭の価格の上昇や採石のスポット需要増等により増収を確保し、豪州の炭鉱会社から平成29年9月28日に1,128百万円の受取配当金があったこと等により、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高7,255百万円（前年同期比39.8%増）、経常利益1,923百万円（前年同期比447.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,752百万円（前年同期比517.5%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①石炭事業部門

石炭価格が大幅に上昇したことにより、売上高は6,751百万円（前年同期比42.9%増）、セグメント利益は233百万円（前年同期比2.1%増）となりました。

②新素材事業部門

主要顧客在庫調整が長期化しているため、売上高は144百万円(前年同期比20.9%減)、セグメント利益は29百万円（前年同期比34.7%減）となりました。

③採石事業部門

西日本側では砂防ダム等公共工事の需要が回復し、東北方面では原子力関連工事及び空港滑走路工事の特需が業績に貢献したため、売上高は359百万円（前年同期比26.5%増）、セグメント利益は55百万円（前年同期比210.7%増）となりました。

（注）金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び売掛金並びに商品及び製品が減少したものの、現金及び預金等が増加したことから、前連結会計年度末に比べて1,377百万円増加し、17,737百万円となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、支払手形及び買掛金が増加したものの、その他の流動負債並びに社債が減少したことから、前連結会計年度末に比べて164百万円減少し、5,277百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、自己株式の取得により減少したものの、利益剰余金が増加したことから、前連結会計年度末に比べて1,542百万円増加し、12,459百万円となり、自己資本比率は69.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績及び平成30年3月期の連結業績予想は、平成29年10月13日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,656	3,558
受取手形及び売掛金	1,578	1,257
商品及び製品	2,022	2,013
仕掛品	95	100
原材料及び貯蔵品	11	13
繰延税金資産	21	21
その他	214	80
流動資産合計	5,599	7,044
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	804	773
機械装置及び運搬具(純額)	137	180
土地	5,765	5,765
リース資産(純額)	66	57
建設仮勘定	54	-
その他(純額)	6	7
有形固定資産合計	6,835	6,784
無形固定資産		
その他	43	33
無形固定資産合計	43	33
投資その他の資産		
投資有価証券	3,740	3,742
その他	571	571
貸倒引当金	△431	△440
投資その他の資産合計	3,880	3,873
固定資産合計	10,758	10,691
繰延資産		
社債発行費	1	0
繰延資産合計	1	0
資産合計	16,359	17,737

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	266	465
短期借入金	450	450
1年内償還予定の社債	240	120
未払法人税等	95	44
引当金	26	23
その他	388	173
流動負債合計	1,466	1,277
固定負債		
長期借入金	2,000	2,000
繰延税金負債	431	436
再評価に係る繰延税金負債	286	286
退職給付に係る負債	149	157
長期預り金	76	82
資産除去債務	23	23
訴訟損失引当金	400	400
環境対策引当金	532	549
その他	74	64
固定負債合計	3,975	4,000
負債合計	5,442	5,277
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,501	2,501
資本剰余金	967	967
利益剰余金	7,103	8,728
自己株式	△233	△332
株主資本合計	10,339	11,864
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	813	822
土地再評価差額金	△293	△293
その他の包括利益累計額合計	520	529
新株予約権	56	65
純資産合計	10,917	12,459
負債純資産合計	16,359	17,737

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	5,190	7,255
売上原価	4,442	6,485
売上総利益	748	769
販売費及び一般管理費	711	678
営業利益	37	90
営業外収益		
受取利息	6	9
受取配当金	413	1,866
持分法による投資利益	-	8
固定資産賃貸料	28	28
その他	1	5
営業外収益合計	451	1,918
営業外費用		
支払利息	22	21
持分法による投資損失	26	-
その他	88	64
営業外費用合計	137	85
経常利益	351	1,923
特別利益		
固定資産売却益	10	5
関係会社株式売却益	19	-
特別利益合計	30	5
特別損失		
固定資産除売却損	22	8
環境対策費	3	11
その他	2	1
特別損失合計	28	21
税金等調整前四半期純利益	353	1,907
法人税、住民税及び事業税	69	155
法人税等調整額	△0	△0
法人税等合計	69	155
四半期純利益	283	1,752
親会社株主に帰属する四半期純利益	283	1,752

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	283	1,752
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△74	8
その他の包括利益合計	△74	8
四半期包括利益	208	1,760
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	208	1,760
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年5月15日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得を行いました。この取得や単元未満株式の買取りにより自己株式は、当第2四半期連結累計期間に、99百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において332百万円となりました。

3. その他

当社、当社子会社住石マテリアルズ株式会社（以下「住石マテリアルズ」といいます。）及び同住石貿易株式会社は、じん肺に罹患しているとする患者らから平成26年12月に損害賠償請求訴訟を提起されました。

その後、6次にわたり訴訟の提起があり、原告総数128名（患者単位）、損害請求総額1,839百万円となりました。

訴訟提起に至った経緯は平成23年8月、北海道地区において住友石炭鉱業株式会社（現住石マテリアルズ）及びその子会社であった住友石炭赤平炭砒株式会社等が経営していた炭鉱等の元従業員等が、訴訟外でじん肺罹患による損害賠償を求めてきたのを皮切りに、その後数次にわたり請求の追加があり、元従業員等の代理人と協議を重ねてきましたが、合意成立に至らず、本件訴訟を提起されるに至ったものであります。

今後は、訴訟を通じて原告の主張を精査し、当社の主張を行っていく所存であります。